

学校評価書

平成30年度 蕪崎東中学校

(自己評価)

教職員による学校評価アンケート

前期 平成30年 7月 9日～ 7月13日

無記名・評定尺度4段階・一部記述式・単純集計

【配布数 32 回答数 32 回収率 100%】

後期 平成30年11月 5日～11月16日

無記名・評定尺度4段階・一部記述式・単純集計

【配布数 32 回答数 32 回収率 100%】

(参考アンケート)

(1) 保護者アンケート 平成30年11月 5日～11月16日

無記名・評定尺度5段階 (E:わからない を追加) ・一部記述式・単純集計・厳封提出

【配布数 402 回収数 391 回収率 97.2%】

(2) 生徒アンケート 平成30年11月 5日～11月16日

無記名・評定尺度4段階・一部記述式・単純集計

【配布数 402 回収数 394 回収率 98.0%】

次の項目について自己評価をまとめている。

- 1 本年度の評価結果がよかったものである。今後も本校の特色として、全職員をあげて取り組んでいきたい。
- 2 本年度の評価結果があまりよくなかったものである。改善の手立てをたて、本校の教育水準を向上させたい。
- 3 昨年度同期と比べよくなったものである。今後も全職員をあげて取り組んでいきたい。
- 4 昨年度同期と比べあまりよくなかったものである。改善を進めたい。
- 5 改善項目への取り組みの状況をまとめたものである。

さらに、自己評価結果の数値については、

各項目についての評価は、(A:そう思う B:だいたいそう思う C:あまりそう思わない D:そう思わない)

の4段階から該当すると思う段階(A・B・C・D)の1つに○印を付けて回答している。

参考として付けた、保護者アンケート結果、生徒アンケート結果については、全校からの回答割合を%数値で表記した。

また、表中のavg. は、A～Dを各4～1点として、平均として表した数値である。平均として2.5ポイントが目安となる。

(E:わからない については点数化していない)

前期比、前年比欄は、このavg. を前期(本年度7月実施)と比較したもの、前年(昨年度11月実施)と比較した数値である。

平成30年度 自己評価

1 「そう思う」というイメージが高かった(平均が高かった)内容

番号	具体的な評価内容	今回avg.	昨年比	前期比
12	登下校の安全(交通・防犯)対策・指導が適切に行われている。	3.7	0.1	-0.1
	課題・意見 しっかり行われていると思います。			
総括	◎高い評価がされている。			
改善	◎今後も全職員が協力して適切に行っていく。			

番号	具体的な評価内容	今回avg.	昨年比	前期比
14	健康診断(生徒)は事前指導、事後指導が適切に実施されている。	3.7	0.1	0.1
	課題・意見			
総括	◎高い評価がされている。			
改善	◎今後も全職員が協力して適切に行っていく。			

番号	具体的な評価内容	今回avg.	昨年比	前期比
8	校内研究は適切に推進されている。(課題設定・組織・運営)	3.6	0.0	0.0
	課題・意見			
	もう少し学年で取り組みたい。			
総括	◎高い評価がされている。			
改善	◎今後も実態に即して適切に推進していく。			

番号	具体的な評価内容	今回avg.	昨年比	前期比
2	学校経営方針・努力点を理解し、協力的な学校運営がなされている。	3.6	0.0	0.2
	課題・意見			
	お互いに批判や努力点をカバーし合えるとよい。			
総括	◎高い評価がされている。			
改善	◎今後も経営方針や努力点を踏まえて協力的に行う。			

番号	具体的な評価内容	今回avg.	昨年比	前期比
1	教育環境(職員・施設・生徒・家庭・地域)の実態に即した学校経営が行われている。	3.5	-0.1	0.0
	課題・意見			
総括	◎高い評価がされている。			
改善	◎今後も教育環境の実態に即した学校経営を行う。			

2「そう思わない」というイメージが高かった(平均が低かった)内容

番号	具体的な評価内容	今回avg.	昨年比	前期比
20	道徳の時間の調査週(26週分)までの実施時数 A 24時間以上 B 21~23時間 C 18~20時間 D 18時間以下 (改善項目④)	2.8	-0.1	-0.1
	課題・意見			
	学校行事との関係で道徳の時間を使わなければならない状況にある。			
	教科化に向けて意識は高まってきたように感じる。			
	授業のカット等により時数確保が難しい。 行事にかかわる時間にしているようです。			
総括	◎効果を認める割合がすくない。効果をあげる取組を考えたい。			
改善	◎改善策をもち、来年度の教育課程に活かす。 ◎改善策として、各学年の道徳担当が中心となって、共通の略案を作成するなど学年での共通理解のもとで授業実践をすすめる。本年度の校内研究で取り組んだように、どの学級でも研究授業のプレ授業として取り組めた経験を生かして改善を進めたい。			

番号	具体的な評価内容	今回avg.	昨年比	前期比
17	生徒が授業において「わかる」「できる」という思いを感じている割合は高いと思う。(改善項目 課題・意見	3.0	-0.1	-0.1
	生徒の学校評価の結果を見る限り、まだまだ改善の余地があると思います。			
	学力の低い生徒へのフォローする時間がない。			
	授業の見通しと振り返りをさらに進めたい。			
	支援が必要な生徒への個に応じた指導が難しく、子どもの教え合う時間有効活用して改善する。			
	まだまだ自分の意識が足りない。指導力の向上を目指す。			
総括	◎少しずつ改善する方向にはなっているという印象がある。しかし、昨年度までの評価とほぼ同じである。継続して取り組む必要がある。保護者、生徒ともに昨年度とほぼ同じである。改善が見られたとはいえない。			
改善	◎来年度も改善項目として継続して取り組む。 ◎必ず授業の終末では、振り返る時間を確保して、「わかった」「できた」という確かめができる時間を確保する。また、「わかった」「できた」という記録が残るような授業づくりを進める。			

参考資料
生徒アンケート

番号	質問項目	今回avg.	昨年	
7	あなたは、授業で学んだことが身についていると思いますか。	3.1	3.1	
8	先生はわかりやすい授業をしてくれますか。	3.2	3.2	

保護者アンケート

番号	質問項目	今回avg.	昨年	
6	お子さんは、学校の授業がわかりやすいと言っていますか。	2.4	2.2	

番号	具体的な評価内容	今回avg.	昨年比	前期比
43	言語環境の整備は適切に行われている。(生徒はもちろん教師の活動を含めた掲示・放送・言葉遣い・あいさつ)	3.0	-0.3	-0.1
	課題・意見			
	あいさつができなくなっているのは大きな課題だと思う。学級、学年、部活動等で指導を続けていくしかないと思う。			
	号令の声、あいさつの声、司会者の声等、声が小さい生徒が目立つ。			
	教師を含めあいさつが自然にできるようにしたい。 はきはきとした話し方を鍛えていかなければならない。			
総括	◎効果を認める割合がすくない。効果をあげる取組を考えたい。			
改善	◎改善策をもち、来年度の教育課程に活かす。 ◎改善策として、職員からも生徒に積極的にあいさつをするとともに、職員間のあいさつも大きな声でおこなって生徒に示すことを意識する。			

3 昨年度同期と比べイメージが良くなった(平均が高くなった)内容

番号	具体的な評価内容	今回avg.	昨年比	前期比
9	校舎内外の施設設備について定期的に点検し、結果を的確に処理(整備・保全)している。	3.7	0.2	0.0
	課題・意見			
総括	◎施設設備に関して、定期的な点検結果を踏まえて、適切に処理できるようになってきた。このままの体制を維持していきたい。			

番号	具体的な評価内容	今回avg.	昨年比	前期比
42	レベルアップ学習は効果が認められる。(改善項目⑧)	3.1	0.2	0.1
	課題・意見			
	普段は部活指導があり、なかなか指導できないが、この時間を利用してわからないところを教えることができる。			
	他校でも同様の取り組みを行ったことがあるが、生徒の集中力が続かないなど本校にも見られる状況がある。			
	授業時数の確保に当てるとどうか。			
	試験前1～2時間で効果を上げるためには、どうすればよいか研究が必要である。			
	放課後希望する生徒を対象にでもよいのでは。自習の時間になっている生徒も多い。			
総括	◎昨年度に比べて改善が図られた。個別指導の時間の確保として、さらに効果的な運営を研究していきたい。			

4 昨年度同期と比べイメージが悪くなった(平均が低くなった)内容

番号	具体的な評価内容	今回avg.	昨年比	前期比
37	PTA活動推進のため、教師・保護者が積極的に関わっている。	3.2	-0.2	-0.2
	課題・意見			
	PTA活動への参加が少ない。			
総括	◎PTA活動に参加する保護者の積極性は年々低くなる傾向にある。魅力あるPTA活動を実践していく必要がある。参加すると保護者のためになる活動だと知らせることが大切である。そのことをアナウンスできる教員の取り組みが必要な時期である。			
改善	◎改善策をもち、来年度のPTA活動に活かす。 ◎改善策として、教職員が、率先して協力姿勢を見せながら、参加者からの参加して良かったと話すことができる機会を設ける。特に、PTA理事会などで取り組む。			

5 改善項目への取り組みの状況

番号	具体的な評価内容	今回avg.	昨年比	前期比
6	会議は、能率的に行われている。(改善項目①)	3.0	-0.1	-0.1
	課題・意見 会議の終わりを早くすることが難しい現状のなかで、会議を開始する時間を早くできないかを考えてみてよい。			
総括	◎資料の事前配付、提案時間の見込み設定などに取り組み、少しずつ改善する方向にはなっている。しかし、職員の多忙化解消への取り組みのひとつとして会議をさらに能率的に進めていきたい。			
改善	◎来年度も改善項目として継続して取り組む。 ◎会議の開始時間を早い時間となるよう可能な限り設定する。 ◎提案時間の設定を実際可能なものとして計画する。会議終了時間内におさまるよう事前に検討する。当日の持ち込み資料による提案などは極力扱わない。事前の運営委員会での検討を必ず行うことを確認する。			

番号	具体的な評価内容	今回avg.	昨年比	前期比
18	授業において個に応じたきめ細かな学習指導に取り組んでいる。(改善項目③)	3.1	0.0	0.1
	課題・意見 学力の低い生徒へのフォローする時間がない。			
総括	◎少しずつ改善する方向にはなっているという印象がある。しかし、昨年度までの評価とほぼ同じである。継続して取り組む必要がある。授業内での評価を適切に行い、個に応じられるように授業設計を進めていきたい。			
改善	◎来年度も改善項目として継続して取り組む。 ◎学級担任による「家庭学習のすすめ」(県教委)を使った学級指導を必ず実施する。 ◎自主学習ノートを使った家庭学習について継続して指導する。提出率を上げる。 ◎個に応じる課題を設定した授業づくりや家庭学習を支援する工夫を行う。			

参考資料

保護者アンケート

番号	質問項目	今回avg.	昨年	
16	学校は、きめ細かな学習指導や評価を行っていると思いますか。	2.7	2.4	

番号	具体的な評価内容	今回avg.	昨年比	前期比
27	家庭学習を支援する手立てを行っている。(改善項目⑤)	3.2	0.0	-0.1
	課題・意見 家庭学習に定着を図りたいが、できていないのが現状である。			
総括	◎家庭学習の意義や進め方についての指導が少しずつされてきている。しかしながら、家庭学習が定着されなかったり、学習量の確保などがされなかったしている。家庭生活での時間設定を含めて、保護者と協力しながら手立てを考える必要がある。			
改善	◎来年度も改善項目として継続して取り組む。 ◎家庭学習を促したり、家庭学習の進め方などを学級活動で必ず指導する。家庭での時間設定についても個人ごとにきめ細かな指導を続けていきたい(SNSの利用、ゲーム等の時間などを配慮する)。 ◎山梨県教委による「家庭学習のすすめ」を用いた授業実践を必ず行う。			

参考資料
生徒アンケート

番号	質問項目	今回avg.	昨年	
11	あなたは、家庭で毎日勉強していますか。	3.1	3.2	

保護者アンケート

番号	質問項目	今回avg.	昨年	
7	お子さんは、家庭で毎日勉強していますか。	2.8	2.8	

番号	具体的な評価内容	今回avg.	昨年比	前期比
33	不登校生徒を復帰させる指導, 不登校生徒をつくらない指導をしている。(改善項目⑥)	3.3	-0.2	-0.1
	課題・意見			
	スクールカウンセラーの利用の充実。			
	スクールカウンセラーの活用は十分にされていると思うが、もう一步踏み出した指導をしていく必要があるのではないだろうか？ 家庭訪問をしてもなかなか本人に会えない状態です。			
総括	◎担任が家庭訪問して家庭での状況を確認しながら指導を継続してきている。不登校対策会議も定期的に設けられ、対策として外部機関との連携を進めて対応を図ってきている。SCの利用が進められて効果を上げてきているが、目に見えるほどの成果にはつながらないので継続する必要があると感じる。			
改善	◎来年度も改善項目として継続して取り組む。 ◎学級での学級活動の充実を図り、道徳教育にも力を入れて授業実践から不登校生徒を復帰させる指導、不登校生徒をつくらない指導を進める。 ◎不登校傾向にある生徒には担任や不登校生徒指導による家庭訪問や、保護者との教育相談の時間を確保して個別の指導を進める。 ◎不登校生徒指導を中心として、SCの利用、外部機関との連携をさらに進め、保護者の協力を得ながら登校復帰となるよう指導を進める。 ◎改善策として、コミュニケーション力を強化する授業(学級活動や道徳)づくりに力を入れる。			

番号	具体的な評価内容	今回avg.	昨年比	前期比
39	「通信表の二期制」の目的は達成されている。(改善項目⑦)	3.1	0.1	0.1
	課題・意見 二期制の良さを生かしつつスムーズに三学期制に移行したい。			
総括	◎二期制の良さについて教師が改めて考える1年となった。わかりやすいとされる三学期制にスムーズに移行を進めたい。二期制の成果をまとめて、三学期制への移行を図る。			
改善	◎二期制の成果を生かした三学期制について説明の機会を設け、理解を図る。さらに、三学期制に移行した成果を学校評価で確かめる。 ◎授業時数の確保から通信表の二期制が実施されている。三学期制での具体的な授業時数確保の方法を示して三学期制に移行したい。 ◎予想される教師の多忙化解消に向けての方策を示したい。			

番号	具体的な評価内容	今回avg.	昨年比	前期比
45	いじめのない学校づくりができています。(改善項目⑨)	3.1	-0.1	-0.1
	課題・意見			
	「早期発見、即時対応、早期解決」組織的な対応が必要であり重要、協同体制の構築と子どもの健全面を強化する指導を行っていく。 心がけての指導にあたっているが、いじめが起きてしまった。			
総括	◎どの学校にも起こりうるのが「いじめ」という認識のもとで対応を図りたい。教師個人として、組織としていじめのない学校づくりに取り組んでいきたい。いじめの早期解決に向けても組織としての対応を確認しながら進めていきたい。			
改善	◎「未然防止」として何ができるのかを考え、確実な実践を進める教師を目指す。特に、道徳や学級活動、学年行事などの授業での実践に力を入れていく。 ◎「早期発見、即時対応、早期解決」ができる組織的な取り組みを確認し、組織を機能させる実践をすすめる。 ◎「生活ノート」(毎日の感想を書く欄が用意されている。)の活用、「自分を見つめてみよう」(2月に1度程度実施するアンケート)の集計などから、新たな情報に基づき指導に生かす。			

6 以下の項目については、来年度改善項目として取り組む。

- | | | |
|----|--|----|
| 6 | 会議は、能率的に行われている。 | 継続 |
| 17 | 生徒が授業において「わかる」「できる」という思いを感じている割合は高いと思う | 継続 |
| 18 | 授業において個に応じたきめ細かな学習指導に取り組んでいる。 | 継続 |
| 20 | 道徳の実施時間数の確保および指導と評価の改善 | 新規 |
| 27 | 家庭学習を支援する手立てを行っている。 | 継続 |
| 33 | 不登校生徒を復帰させる指導、不登校生徒をつくらない指導をしている。 | 継続 |
| 39 | 通信表が「三期制」と変わり、その目的は達成されている。 | 新規 |

学校関係者評価

1 学校関係者評価委員会

- 学校評議員(5名)に上記の自己評価に関する意見をいただいた。
- 平成31年2月7日に開催した。

2 評価の内容

- おおむね自己評価にある改善の手立てを推進して行って欲しい。
- アンケートの集計は、自己評価は回収率 100%でよいが、他の回収率も可能な限り 100%に「近づけて欲しい。不登校生徒等の事情によるものと思うが。
- 生徒指導に関して
 - ・ 東中は比較的大きな学校という認識がある。複数学級や、それに応じた教師数が確保されている。ぜひ、教師の多様性を生かした教育活動を本校の強みとして発揮して欲しい。
 - ・ 家庭によって、生徒の指導に差があると思う。子どもが家庭での被害者とならないように、ぜひ学校で努めて欲しい。経済的負担、教育についての考え方、さらにはPTA活動など様々な実態があるとは思っているが対処をお願いしたい。
 - ・ 教師の印象にも感じられるが、本校生徒は自主性や主体性が弱い生徒が多いと思う。普通な表現ができるようにして欲しい。指示待ちにならないような生徒の育成を目指して欲しい。
- 不登校生徒の指導に関して
 - ・ 不登校の原因の究明とそれへの対応を適切をお願いしたい。必要がある場合は、関連機関との連携を強化して真摯に対応をして欲しい。現在のところ、適切な対応がなされていると思っている。
 - ・ 項目にあげられているような改善の手立ての確実の実施を期待している。
- 「いじめ」については、今後も実態をとらえて指導に全力を挙げて取り組んで欲しい。
 - ・ 誰とでも仲良く生活するように学校では教えるであろうが、いじめを考えるときはそうばかりとは言えないような気もする。嫌いな人とのつきあい方など含めて幅のある指導をすすめて欲しい。
- 教師の多忙化解消に向けて
 - ・ ぜひ教師の健康維持のためと取り組んで欲しい。若い先生方にも早く適切な処理の仕方を身につけていただき、多忙にならないようにして欲しい。
 - ・ 多忙化解消に向けて部活動のあり方が示された。本校でも実施しているようだが、部活動の成績はいかがだろうか。成績ばかりにこだわるつもりはないが、部活動の楽しさが伝わるよう指導をお願いしたい。
 - ・ 部活動への取り組みについては、家庭での期待感はかなりの差があろう。適切な練習時間の確保のもとで、負担にならないようにと取り組んで欲しい。
- 今後も、地域との交流を図ることを、保護者にも理解を得ながら進めて行って欲しい。